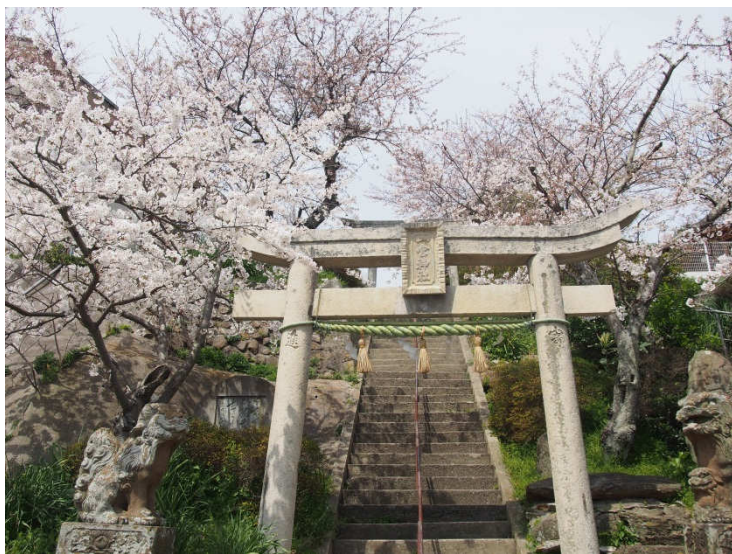


知夫里の暮らし方



1. はじめに

知夫里島は小さな島です。

この島では、時間がゆっくりと流れ、村人は豊かな自然の中で、その恵みを受けて暮らしています。

また、人の繋がりが濃密で、村人同士が協力し、助け合いながら生活しています。

そして、都会のように物があふれることもなく、あるものを大事に、活かしながら生きる生活がこの島にはあります。

この冊子は、知夫里島に移住しようとする方に向けて、知夫里島の暮らしについてまとめたものです。

この冊子を参考にさせていただき、島の生活に早く馴染んでもらいたいと思います。



<もくじ>

1. はじめに	1
2. 島の概要	2
3. 知夫里の暮らし講座	3
4. 行事カレンダー	9
5. 転入時の手続き	11
6. 暮らしの分野別情報	11

2. 島の概要

知夫村（ちぶむら）は、島根県隠岐諸島の最南端、知夫里島（ちぶりじま）にある一島一村の小さな村です。ビルや信号、コンビニもない、自然豊かな環境にあり、近海で獲れるサザエやアワビなど新鮮な海の幸が自慢です。

- 島名 知夫里島（ちぶりじま）
- 位置 島根半島の北、約42km
- 面積等 13.7 km²、周囲27km
- 人口等 609人（351世帯）平成28年7月1日現在
- 気候
 - ・対馬海流の影響を受け夏冬の温度差が少ない
 - ・積雪量は山陰海岸より少ないが、冬は風が強く寒い
- 産業 畜産業、漁業
- 観光地 大山隠岐国立公園に含まれ、国の名勝天然記念物「赤壁」や標高325mの「赤ハゲ山」がある。



- その他
 - ・島の大部分が牧畑を利用した牛の牧草地となっており、道路に牛、馬が寝転んで車の行く手を阻むことがあります。
 - ・自分で釣ったり、お裾分けで貰ったりして魚が簡単に手に入ります。また、野菜もご近所の畑を借りて家庭菜園で栽培できます。



3. 知夫里の暮らし講座

島の暮らしに早く馴染んでもらうために知っておいて欲しい島の習慣や情報、食べ物などをご紹介します。

これを読めば直ぐにあなたも「知夫里人」！？

(1) 島のルール（習慣）

【区会】

各世帯の代表者が参加し、祭りや行事、清掃などについて話し合いを行う集落（区）単位での集まりのことです。村には7つの区があり、区によって違いますが、だいたい年2、3回程度開催されます。お互いのことを知るためにも可能な限り参加すると良いでしょう。

【地域行事等への参加】

集落で実施する草刈りや海岸清掃、祭りなどの地域行事は、集落の維持や親睦に欠かせないものです。また、消防団や区の役割なども回ってきます。行事等には積極的に参加し、頼まれた役員は引き受けるようにしましょう。人手が足りないので、とても頼りにされると思います。

【屋号で呼び合う】

家の呼び名のことです。島の中では同じ名字の家も多いため、屋号で呼び合い区別しています。最初は戸惑うと思いますが慣れると便利です。

【方言を理解する】

知夫の人と話をする時、最初は会話の所々に出てくる方言に戸惑うことがあります。特に年輩の方が喋られる言葉は分かりにくいので、分からなくてもうなずくか、笑ってやり過ごしましょう（笑）

【牧道は牛優先】

島の中には牧道が多くあり、特に観光地へ行く道は殆どが牧道です。そうしたところでは、牛が道路を歩いていたり、寝そべっていたりします。牛が道路を塞ぎ動かない時は、車のドアをパンパンとたたくと、どいてくれます。

【引っ越しの手伝い】

村の人はとっても親切です。引っ越しの日には大勢の人が集まって手伝いをしてくれるので大助かりです。

私が初めて島にやってきた日、フェリーを降りると「ようこそ〇〇さん」と書いた看板を持って、大勢の村人が笑顔で出迎えてくれました。

村の方々は、家電製品や家具、布団など大きな荷物もあつという間に軽トラックに積み込み、そのまま設置まで手伝ってくれました。

お陰様で引っ越しも無事終わり、島で暮らす事に心配もありましたが、村人の親切に触れ、大変心強く感じました。

(転勤で村に来た方の体験談)

【地蔵担ぎ】

婚礼の際の伝統行事で、地区の若者が新婚の家に地蔵3体を担いで持って行き、2体は向かい合わせにして縛り付け、残り1体を家の中に隠します。これは夫婦円満と子宝を願うものです。見たらきっとビックリです。

平成26年1月24日、私たちの結婚を祝し、伝統儀式「お地蔵さん担ぎ」が行われました。最近では島で結婚式がなく、行われるのは久しぶりです。私自身出郷していたため、噂でしか聞いたことがない儀式でした。さて、実際の儀式はお祝いというより、打ち壊しに近いものがありました。その晩、地域の男衆により実家の軒先に担ぎ込まれたのは、重さ70~80kgはあろうかというお地蔵さん3体！そして・・男数人で持ち上げる錨と船1隻！！男衆により庭の垣根はへし折られ、錨が床の間に突き刺され、騒ぐ踊るのお祭り騒ぎ！家が壊されるかと心配しましたが、迫力満点の壮絶儀式には何とも言えない縁起の良さが感じられ、感謝と同時に仕返しのためにも(笑)、絶対に受け継ぎたい文化だと感じました。これで夫婦円満間違いなしです。



(お祝いをしてもらった方の体験談)

(2) 便利アイテム

【車】

村での移動手段として、車は必須です。道が狭いし、移動距離も短いので、軽自動車の方が便利で経済的です。荷物が沢山積めるタイプのものでお勧めします。

たまに積雪もあるので、出来れば四輪駆動車が良いでしょう。

【釣り竿、道具】

島の周りは、良い釣り場が多く、釣り好きにはたまりません。また、釣った魚は、刺身や焼き魚、煮魚として美味しくいただけます。島に住むからには、釣り竿・釣り道具は持っておきたいですね。

【出刃包丁】

島では、魚を自分で釣るのは勿論、貰う機会も多いです。このため魚をさばくための出刃包丁はがあると便利です。

【水中めがね、シュノーケル】

海に潜るために必要です。夏にはサザエの解放区があるので潜ってサザエを採ることができます。

【カッパ、長靴、軍手】

畑仕事や草刈り、釣りなど、使用頻度は高いです。

【鍋、ホットプレート】

これらがあると近所の人が集まって、ワイワイにぎやかに、いつでもパーティーができます。

【ストーブ】

冬は寒いのでストーブがあると助かります。

【鎌、草刈機】

島では草刈りをする機会が多く、最低限、鎌は必須です。



(3) 旬の幸・料理

<旬の幸・料理カレンダー>

季節	春 (3-5月)	夏 (6-8月)	秋 (9-11月)	冬 (12-2月)
陸の幸	山菜 (ワサビ、セリナ イ ほか)、筍 ジャガイモ 玉ねぎ 野いちご	梅 ビワ 夏野菜 桃 桑の実	栗 イチジク 柿 サツマイモ 銀杏	大根 椎茸 ふきのとう ふくぎ
海の幸	岩がき もぶし (スズメダイ イ) もずく	飛魚 (アゴ) イサキ アワビ サザエ ウニ	カマス シイラ ヒラマサ アオリイカ	ブリ くろや 岩のり 神葉草、川、ツバ なまこ
料理	菱餅・ぼたもち 精進料理 煮染め	赤飯 ところ天 押し寿司 混ぜご飯	おはぎ 団子餅 煮染め 混ぜご飯	煮染め かぼちゃの甘煮 おせち料理 なまこの酢の物

【もぶし (もぼし)】

スズメダイのことをもぶしと呼んでいます。

春のもぶしは脂がのって大変美味しく、小さな魚なので背越しにして、骨ごと食べます。



【もずく】

春はもずくの季節です。ホンダワラに付着する普通のもずくと、海底の石に生える岩もずくが、食べられています。

【煮染め】

島では、採れた根菜類や芋類、山菜などに、こんにゃくや油揚げを加えて作った煮染めを、正月やお祭りの時によく食べます。味付けは各家庭で違い、野菜をたっぷり摂れます。

【混ぜご飯】

島では、混ぜご飯をよく作ります。具材は、旬の魚介類が多く、センタ（マツバがイ）やサザエ、くろやなどが代表的です。また、この混ぜご飯を岩のりで巻いて太巻きにすることも多く、お祭りの時などに振る舞います。

【くろや】

知夫ではメジナ（グレ）のことをくろやと言います。夏場は特有の臭みがありますが、冬場は身が締まり脂ものって大変美味しくなります。

【神葉草（じんばそう）】

冬に旬を迎えるホンダワラは神葉草と呼ばれ、天日で乾燥させます。料理は漬け物、酢味噌、ばら寿司の具などとしていただきます。



【はば（ハバノリ）】

はばは、ハバノリを乾燥させて板状にしたもので、岩のりとコンブを足したような風味で、独特の磯の香りが特徴です。



【そぞ】

そぞは、和名をユナと言い、冬場の波打ち際に見え隠れる紫色の海藻です。独特の強い磯の香りがあり、好き嫌いはありますが、好きな人にはたまらない味です。

知夫里島の方言（言葉）

島の方言は、イントネーションに特徴があり、島独自の意味を持つ言葉もありますが使う人は少なくなりました。知夫里島の昔ながらの方言をご紹介します。

「がい」=大きい

例：「がい」な子牛が生まれた

「ちょいちょい」=早く

例：「ちょいちょい」すっだわい→早くしなさい

「ええだわい」=構わない

例：まーええだわい→大丈夫、何とかなる

「ごせ」=下さい、頂戴

例：そこのペン取って「ごせ」→取って下さい

「なんかしい」=ともあれ、ともかく

例：「なんかしい」休もうや

「アサリ」=亀の手 ※アサリのことは「トトカマ」

(4) 本土からのアクセス

【航空路】

隠岐の島町に隠岐空港があり、直行便は出雲空港と伊丹空港から毎日1往復の定期便が就航しています。(出雲空港からは約30分、伊丹空港からは約1時間です。)

隠岐空港から知夫村までは、フェリー又は高速船を利用します。(但し、高速船は知夫村へ寄港しないため、菱浦港又は別府港で内航船に乗り換える必要があります。)

【船(フェリー・高速船)】

本土側の2つの港(七類港、境港)からフェリーと高速船が定期運航しています。但し、高速船は知夫村へ寄港しないため、菱浦港又は別府港で内航船に乗り換える必要があります。

【本土側の各港まで】

七類港：J R松江駅、J R米子駅から連絡バスが運行

境港：J R松江駅、J R米子駅及び米子空港から連絡バスが運行
(境港はJ R境港駅と直結)



<船の発着時間の確認先>

本土間 隠岐汽船(株)

(<http://www.oki-kisen.co.jp>)

内航船 隠岐観光(株)

(<http://www2.ocn.ne.jp/~okikanko/>)

<隠岐4島の港の名前>

知夫村：来居(くりい) 港

海士町：菱浦(ひしうら) 港

西ノ島町：別府(べつぷ) 港

隠岐の島町：西郷(さいごう) 港

4. 行事カレンダー

春

4月 お大師参り

弘法大師のご命日（旧暦3月21日）に、島の七地区のお堂、お地蔵さんを廻ってお参りします。

その際、それぞれの場所で御馳走をふるまっています。



4月 野だいこん祭り



野だいこんの咲く頃、仁夫里浜公園で野だいこん祭りが開催されます。臨時舞台での演芸や出し物、屋台など楽しい1日を過ごせます。

7月 一宮神社大祭り（隔年の7月最終土・日曜日開催）

島民から一宮さん（いっくうさん）と呼ばれ親しまれる一宮神社。2年に1度の夏期例大祭では、子供歌舞伎、隠岐島前神楽、浦安の舞、三番叟などが奉納されます。

また、境内には、後醍醐天皇が上陸されたときに腰かけられたという、お腰掛の石もあります。



8月 サザエつかみどり

毎年、8月上旬に木佐根でサザエのつかみどりが行われます。浅瀬にサザエを撒き、参加者が一斉に海に入り探し始めます。当然、採ったサザエは浜でバーベキュー！

8月 花火大会

お盆には花火大会が開催されます。お盆で帰省した懐かしい人たちと再会し、夜空に打ち上がる花火を一緒に見て楽しめます。

8月 精霊（シャーラ）船

小さな木の舟を作って、祖先の霊と供物を一緒に海に流す送り盆行事です。

写真の船はFRP製で、船は霊を送った後に持って帰り、来年も使用します。



夏

秋

9月 皆一踊り

一宮神社で陰暦8月15日に奉納される皆一踊り。奉納舞として、その他雨乞いや風祈祷として、受け継がれています。



10月 村民運動会

毎年恒例の村民運動会、各地区が三組に分かれて競い合います。人口減少で参加者数も減りましたが、そこは知夫村民、一致団結して運動会を盛り上げます。

11月 どっさり祭り

村民文化祭として開発センターで開催されるどっさり祭り。地元野菜市やマグロの解体ショー、展示、バザー、子ども達の発表など盛りだくさんの内容で島内外から沢山の来場者で賑わいます。

11月 蛇巻き (じゃあまき)

7つの集落それぞれに荒神 (こうじん) さんと呼ばれる社があり、その傍らにはワラで作った蛇が木に巻き付けてあります。その年の豊作を感謝し、新たな年の無病息災を願い新たな蛇体をワラで作ります。



1月 お日待ち

元旦に、徹夜で朝日を待ち、無事息災を祈る行事です。現在は、当日の朝に、ご祈念しお神酒を頂いて解散する地区や、直会をして解散するなど簡略化されています。

冬

2月 節分

知夫では節分の際に、体内の「砂おろし」といってナマコやコンニャクを食べる習慣があります。

5. 転入時の手続き

NO	手続き内容	窓口（電話番号）
1	転入、国民健康保険、国民年金、保育所入所、児童手当、介護認定等の手続き	役場村民福祉課 （代表 08514-8-2211）
2	小中学校への転入手続き	村教育委員会 （08514-8-2301）
3	上下水道の使用手続き	役場建設課 （08514-8-2211）
4	電気の使用手続き	横川電気 （08514-8-2846）
5	ガスの供給手続き	J A 隠岐どうぜん知夫支所 （08514-8-2003）

6. 暮らしの分野別情報

分野	島内の状況等
子育て	・村営の郡（こおり）保育所があります。（定員 20 名）
教育	・知夫小中学校があります。（小中一貫教育） ・高校は隣の中ノ島（海士町）に県立隠岐島前高校があります。 ※内航船で通学が可能。（助成制度により無料） ※海士町内に公設塾の隠岐國学習センターもあり
医療	・島内には一般診療所と歯科診療所があります。 ・隣の西ノ島（西ノ島町）には隠岐島前病院があります。 ※出産や高度な医療受診の場合は本土へ行く必要あり
住まい	・民間のアパートはないので、住まいは村営住宅又は借家になります。 ・村営住宅は、空室が出るまで待つ場合があります。 ・借家については、役場が空き家等の紹介・斡旋を行います。
交通	・村営バスは便数が少ないため、自家用車が必要です。 ・島前の3島間は、内航船が運航しており、便数も多く移動に便利です。
その他	・通信環境は、光回線が整備されています。